

8. 調査及び漁業試験の結果

(1) 渡名喜會社

此の會社は別に孤立した島のじゃをく100尋船内の里間味島と渡名喜島の中間偏上にあり海面では96~138mの水深が記され実際は58~80mの浅所が殆んどあつて底質は岩礁や珊瑚類の砂で砂深も幾分深つた凹凸のある漁場である。

ワイヤ式底層網は今回が初めての試みであり魚具も1鉢(80本付)で採集した漁場は旧漁場で定着したとはいへ初日は3回操業で種類54種を漁獲し平均釣獲率は1.25条であつた。翌日は天候が悪化して出来ず、投網3回で中一回は骨根から外れ長繩失効し「ベラ」1尾を網外2回で15尾を漁獲した。釣獲率は2.57条を示している。

(2) 阿蘇前南若塚

北風で時化模様につき島嶼を利用して操業したが、前記試験状況次の如くであつた。

第二次渡名喜漁業試験

1. 調査期間

1952年5月10日~15日 5日間

2. 使用船泊及び乗組員

前同同様

3. 調査海域

前同同様 渡名喜會社

4. 試験漁具について

ワイヤ式底層網2鉢(100本付)

初回の漁具は揚網の最中網が通りを取りにくい點があつたので幹繩20mごとに1個の鍍金サルカン(10号)を取付部の調整と沈子兼用として利用したのが今回の改良点であり、結果的には操業の便が良くあつた。